平成２６年度　第３回　旭川市地域公共交通会議　記録

日　時：平成 27 年 2 月 10 日（火）　午後 2 時～3 時 30 分
場　所：旭川市障害者福祉センターおぴった
出席者：構成員　24 名
祖母井，大家（代理），菅野（代理），橋本氏，松尾氏，蟹谷氏，中田氏，本間氏，踊場氏，柏葉氏，荒川氏，山内氏，東氏，佐藤氏，馬場氏，森田氏，須藤氏，庄司氏，高橋氏，東（代理），田中氏，籾山氏，秋山氏，辻榮氏（代理）
事務局　３名
総合政策部次長　東田　ほか２名
関係者　５名
（一社）北海道開発技術センター　大井氏，村中氏
(株)八千代エンジニヤリング　藤田氏，中浜氏，小坂氏
傍聴者　１名

１　開　会

２　議　事

１）本年度の地域協働推進事業について

資料 1-1 をもとに受託事業者よりモビリティマネジメントの実績について報告。その後，事務局より地域協働推進事業の１次評価案について説明を行い，その後，質疑応答。

構成員）ＩＣＴ技術の進歩を視野に置くことが必要。ボストンでは，ビッグデータを活用したブリッジという交通サービスの提供が行われている。情報システムは加速度的に進化しており，旭川はどういうレベルで対応していくか考えていくことが必要。

また，埼玉のある会社ではデータを使って適正なバス運用を行っている。必要があればバス会社にそうした情報を提供したい。

以上，質疑終了。事務局の評価案を了承。

２）来年度の地域協働推進事業について

資料 2 をもとに，事務局より来年度の地域協働推進事業計画の修正について説明。その後，質疑応答。

構成員）高専でのＭＭについては，技術を紹介し，練習してもらうことは良いことだと思うが，市のほうでも，それを実用化させる用意がないと単なるお遊びに終わってしまう。

また，ＮＴＴで来年度，バス停の多言語の音声案内や，バス停の写真を撮るだけでナビゲーションが受けられるようなサービスを技術開発している。こうした技術を，来年は難し

いが，再来年以降，旭川にも紹介したい。

構成員）バス事業者としても「ばすのりコンシェル」というアプリを開発した。今の話をうかがって，今後もＩＣＴ技術を利用して，利便性向上を図る必要があると感じた。

以上，質疑終了。地域協働推進事業計画の修正を了承。

３）地域公共交通確保維持改善事業の一次評価について

資料 3-1 をもとに，八千代エンジニヤリングより 2 年間の事業成果を報告。その後，事務局より，資料 3-2 をもとに，来年度以降の事業展開について報告。その後，質疑応答。

構成員）基幹交通再編は重たい仕事なので，理念が必要になる。１つ目は高齢者の移動需要の救済。２つ目は自動車に依存しない社会の構築。３つ目は事業者だけではなく，市民にとって適正な公共交通の確立である。今後はそういう，理念の議論も必要である。

また，行政側の組織体制や予算取りも基幹交通再編を考える上での課題となる。例えば，仙台市の事例では，公共交通の乗り替えや料金に関わる変更を行う場合は，住民説明のために，課長が６０回，部長が３０回というように，多数の意見交換会を行った。乗り替えや料金に関わる住民説明はそのくらい重い作業である。また，仙台市は公共交通担当職員が十数人いる。旭川は一人で大丈夫なのかな，と思う。来年度以降，人事的，予算的なドラフトを作っていく作業も必要になるかもしれない。

そのほか，ＩＣカード相互利用化により，ＯＤデータが取れるようになるが，そうしたデータを活用した，路線適正化を研究することも必要だと思う。

４）ＩＣカードの相互利用化について

資料 4 をもとに，道北バス，旭川電気軌道の両社から，ＩＣカードの相互利用化について報告。

３　閉　会

事務局）　次回の交通会議は来年度，春の開催を予定している。

以　上